

「目標」を持つこと

労働者委員 奥 恵利美

最近、私の中で刺激をうけた出来事が3つありました。

1つ目は、知人が半年前がん宣告をされました。そのことを知らない私はお見舞いに行き、元気そうに振舞ってくれる知人に退院を待つだけだねと完治することが当たり前のように声をかけました。すると知人は、実はがん宣告を受け、余命1年と言われたことを教えてくれました。なんと返事をしたらよいものか迷いましたがあまりにも淡々と病状の説明をし、これからはこんなことをしていこう、こうしたいと前向きな言葉しか出てこない知人を前に逆に元気をもらったような気分になりました。抗がん剤治療を受けながら、元気に仕事をされ、好きなお酒も適度に楽しみながら、周りの人に感謝しつつ日々過ごしています。

「病をしても病気をするな」という言葉があります。身体の故障すなわち病は一時的に仕方がないことですが、気まで病むと弱気になり、生命力を衰えさせ、治る病も長引かせたり、悪化させたりするという意味だそうです。知人はまさに気まで病むとどうなるのかを理解しており、目標をもつことで生きがいを見出しているように見えました。前向きな考え方で精神力は強くなり、生命力を高める結果につながるのではないかと感じています。

2つ目は、60歳目前の知人が介護のケアマネジャーの国家試験に4回挑戦し、昨年12月合格したことです。合格したこともさることながら、4度もチャレンジする精神に刺激を受けました。普段は、介護施設で働いており、限られた時間で受験勉強をしていたのだと思われます。脳の構造も年齢を重ねるごとに暗記することが困難になってきているはずですが、その不利な条件を押しつけてチャレンジし続け、4年後にようやく合格という切符を取得しました。合格したいという目標が強い意志となって勉強する励みに繋がったのではないかと思います。

3つ目は、ロサンゼルスで軽飛行機の教官をしている知人が零戦里帰りプロジェクトの顧問をしていると新聞に掲載されたことです。太平洋戦争後ジャングルで発見され海外で復元された零戦を日本の空で飛ばそうという計画だそうです。知人は20代でアメリカへ行き、軽飛行機やヘリコプターの教官になり、日本人にも多く教えています。今回の目標は、ゴールデンウィークに海上自衛隊鹿屋航空基地での航空イベントの飛行だそうです。アメリカにいながら小さい頃からの夢である零戦の復元に強い情熱を持ち続け、実現に向けて頑張っている知人に感銘を受け、夢は叶うものだと刺激を受けました。

3人の知人を通して、目標を持つことが大きな力となり、目標に向かって努力し達成すれば周りにも喜びを共有させることが出来、目標を持つことの大切さを改めて感じました。私も意識して目標を作っていきたいと思っているこの頃です。